

解禁時間（テレビ、ラジオ、インターネット）：平成20年4月4日（金）午後5時
（新聞）：平成20年4月5日（土）付朝刊

平成20年 3月31日

報道関係者各位

国立大学法人 奈良先端科学技術大学院大学

奈良先端科学技術大学院大学
電子図書館システムの刷新で利用者個別のニーズに柔軟な対応
—利用者が使いやすいように構成可能な MyLibrary 機能の運用開始—

【要旨】

高度情報化社会における大学附属図書館を取り巻く環境は急速に変化しており、大学附属図書館はあらゆる情報源を利用して教育研究に必要不可欠な情報収集活動を支援していかなければいけません。このため、常に時代の変化に柔軟に対応できるシステムを提供していこうと、奈良先端科学技術大学院大学(学長：安田國雄)は、同大学附属図書館(館長：千原國宏)に設けた国内最大規模の電子図書館システムを刷新しました。今回のシステムでは、利用者一人一人が利用形態にあわせた専用のホームページを作成できる MyLibrary 機能を実現します。また、授業や講演の映像コンテンツをネットワークを介して閲覧できるという既存のビデオアーカイブシステムに映像検索等の新機能を追加しています。学生を中心とした利用者の利便性を大幅に向上させています。

システムの構築にあたっては、株式会社リコー(本社：東京都、社長執行役員：近藤史朗氏)の図書館情報管理システム「LIMEDIO (リメディオ)」、マルチメディア Web コンテンツ自動生成ツール「MPMeister (エムピーマイスター)」をベースに、これまで培ってきた映像検索技術、高速全文検索技術等、さまざまな最先端技術を結集しています。

今年度よりこのシステムのサービスを本格的に開始します。そこで本学附属図書館システムの現状を広く知っていただくため、関係資料を配付するとともに、下記のとおり記者発表を行いますのでご連絡いたします。

記

【日 時】 平成20年4月4日（金） 13：30～14：40

【場 所】 奈良先端科学技術大学院大学 附属図書館 3F マルチメディア提示室(大)

奈良県生駒市高山町 8916-5 (<http://library.naist.jp/>)

※アクセスについては、<http://www.naist.jp/>をご覧ください。

【新システム紹介の内容】

利用者が利用形態にあわせて専用のページを作成できる MyLibrary 機能及び映像と資料が同期したビデオアーカイブコンテンツの公開。

【スケジュール】

- 13:30～13:35 挨拶 (学長 安田國雄 / 附属図書館長 千原國宏)
- 13:35～13:45 新システムの狙いと意義 (情報科学研究科 教授 砂原秀樹)
- 13:45～14:05 新システムの特徴とデモンストレーション
(情報科学研究科 准教授・附属図書館研究開発室長 藤川和利)
- 14:05～14:25 新システムを支える技術的ポイント
(株式会社リコー グループ執行役員 國井秀子)
(同 研究開発本部 ソフトウェア研究所
マルチメディアプロジェクトリーダー 國枝孝之)
- 14:25～14:40 質疑応答

【ご連絡事項】

- (1) 報道解禁日は テレビ、ラジオ、インターネット：平成20年4月4日(金) 17:00
新聞 :平成20年4月5日(土) 付朝刊
となりますのでお願いいたします(奈良県文化記者クラブと調整済)。
- (2) また、本件につきましては、奈良県文化記者クラブをメインとし、学研都市記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、文部科学記者会に同時にご連絡しております。
- (3) 取材希望がございましたら、恐れ入りますが本学の広報渉外係までご連絡願います。
- (4) 記者発表に関する問合せ先
奈良先端科学技術大学院大学 広報渉外係 藤里、久松
Tel : 0743-72-5026、5112 E-mail : s-kikaku@ad.naist.jp

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

奈良先端科学技術大学院大学 情報科学研究科
TEL : 0743-72-5151 (担当 : 准教授 藤川 和利)
FAX : 0743-72-5149
E-Mail : lib-info@itc.naist.jp

【概要】

附属電子図書館は本学情報環(曼陀羅ネットワーク及び曼陀羅システム)を基盤とした中核設備として、耐障害性の高いシステムになっています。これらの基盤システムとさまざまな技術を用いることにより、後述する新機能が実現可能となりました。

【 今回の附属図書館システムの特徴 】

1. MyLibrary 機能 (平成 20 年度運用開始)

利用者一人一人の利用形態にあわせて、専用のホームページを構築できるようになります。これにより、定期的に参照しているコンテンツ、自分自身の検索履歴等の管理、オンラインコンテンツの管理が行えるようになります。また、電子図書館内に格納された資料とオンラインジャーナルを横断的かつ効率的に検索・管理ができるようになります。

(ア) 利用者専用ページ

新しいタブ、ウィジェット(Widget)として配置されたアプリケーションを追加・削除することができます。

(イ) 効率的な検索

MyLibrary に用意された検索アプリケーション「LIMEDIO SEARCH」により、学内所蔵の検索や学内外の資料の横断検索を行うことができます。

2. ビデオアーカイブシステム(平成 20 年度よりの新機能)

(ア) 講義等のコンテンツ完全自動アーカイビング

事前に登録された授業スケジュールの情報に基づき、講義室に常設されているデジタルビデオカメラで授業風景の映像を自動的に撮影します。また、講師が持ち込んで利用するパソコンに表示するパワーポイントのスライドデータだけでなくページをめくるタイミングも自動的に記録します。これらの情報は、撮影された映像とともに自動的にサーバーに送られ、映像と資料が同期したコンテンツが生成され、ウェブで公開されます。これにより、運用コストが削減されるだけでなく、講義が行われてからコンテンツのウェブでの公開までの期間が、大幅に短縮されます。また、できあがるコンテンツの品質も一定に保たれます。

(イ) 映像検索

コンテンツを生成する際に映像を構造化し、スライドの中のすべてのワードを検索キーワードとして使えるように、ISO の国際標準である MPEG-7 (マルチメディアに付加するメタデータの記述規格) の規格に従ったメタ情報を記録することにより実現しています。

(ウ) ハイビジョン映像への対応

放送局等の専門分野や個人の家庭用映像のみならず、教育研究分野においても高画質化のニーズが将来高まることを予測し、ハイビジョン撮影による映像についてもハンディーカメラで撮影・登録することで、自動撮影の映像と同様に、資料と連動したコンテンツ作成・配信を可能としています。

システム導入の本学担当者は以下のとおり

・情報科学研究科 インターネット・アーキテクチャ講座・附属図書館研究開発室

附属電子図書館研究開発室長 准教授 藤川 和利

